



学校だより

2月号(第530号)
令和2年1月31日
横浜市立すみれが丘小学校

学校教育目標

〈すすんで みんなで れいをつくして がんばりつづけて おもいあって かがやきつづける すみれっ子〉
～豊かな人間関係の中で、一人ひとりが自分のよさを十分に発揮し、互いに高め合う子を育てます～

怒る

副校長 山田 和仁

一月の教室前の廊下には、子どもたちの書初めの作品が掲示されていました。一年生は「お正月」（硬筆）、二年生は「元気な子」（硬筆）、三年生は「生きる力」、四年生は「元気な子」、五年生は「美しい空」、六年生は「希望の朝」を書きました。一人ひとりが新しい年に際し、自分の思いを筆に託して、すがすがしい気持ちで書いたのが感じられました。書初めは一年間の抱負や目標を定めたり、字の上達をねらいとして、平安時代には宮中行事として行われていたものが歴史とともに広く行われるようになったそうです。

お正月にたまたま見ていたテレビのクイズ番組で、難解漢字の読み方が出題されていました。たくさんある問題の中で「怒る」という漢字はなかなか正解が出ませんでした。最後まで正解せずに残ったこの漢字の読み方は、「おもいやる」でした。実は、私も分かりませんでした。が、「怒る」に似ているので、何となくマイナスイメージの意味かなと思って見ていました。読み方が分かったので、早速成り立ちを調べてみました。音読みが「ジョ」、訓読みが「おもいやる」とか「ゆるす」と読むそうで、「神に祈って従順になる(如)」と「心臓(心)」がくっついて、「おもいやりの心(怒)」という意味になるとのことでした。また、はるか昔の中国の書物「論語」にもこの字が出てくるそうです。「人間として一生貫き通すために大切なことを一つの言葉で表す言葉がありますか」と孔子にたずねると、「それは『恕』かな。恕とは人に対しての思いやりの心であり、自分が人からされたくないことは、他人に対して決して行ってはならない」と答えたそうです。

毎年、その年を象徴する「今年の漢字」が発表されたというのが年末のニュースになりますが、去年は「令」でした。令和の令でみんなが納得する一文字ではなかったかなと思います。「令」の字は命令の令で「規則」や「秩序」を表すことから、「美しさ」や「神聖さ」の意味ももっているのです。令和は「美しい調和」＝“ビューティフルハーモニー”と訳されると聞きました。漢字は歴史的な成り立ちの中で深い意味をもち合わせていると改めて感じました。一年の始まりに出会った「怒」という漢字とその意味を忘れることなく、今年の自分自身の目標にしていきたいと思います。